みんな集まれ！

# わくわく生活検討会

## ～私たちはこんな日々を送りたい～

# 報告書

日時：平成 28 年 3 月 19 日（土）　13:00 ～ 16:30

場所：ぴの ほーぷ

主催：中東遠圏域自立支援協議会重心部会

# 『わくわく生活検討会』を終えて

磐田市立総合病院小児科　中東遠圏域重心部会長　白井眞美

3月19日に行われた中東遠圏域自立支援協議会「重心部会」主催の、「わくわく生活検討会」には、予想以上に多くの方の御参加をいただきまして、本当にありがとうございました。御参加いただきました皆様に、この場を借りて改めて御礼申し上げます。

朝から大雨が降るなか、重度の障がいを抱えるこども達の負担にならないか、体調を崩すことにならないかと心配していましたが、昼からは嘘のようにからりと天気になりました。準備から多くの時間を費やしてくれた準備委員会の皆様の熱意、参加者の思いが天に通じたのではと思っています。長時間であったにもかかわらず、それぞれが無理のない範囲で参加し、大きなトラブルなく終わることができたこともよかったと思いました。

各グループに分かれてのグループセッションでは、思い思いのテーマが出されて活発な意見交換がなされました。中東遠圏域という広い地域の中で、今までお互いに顔を合わせたり話したりする機会がなかった方たちの集まりで様々な意見が交わされたことこそ、今回の会の大きな収穫でした。特に医療依存度の高い重症児（者）とその家族が地域で安心して暮らしていくために必要なものは、多機関連携体制の確立であり、そのためにはやはり「顔の見える関係づくり」が大切です。まずは当事者のニーズ、家族のニーズを拾い上げること、地域によっての受けられるサービスに格差をなくすこと、地域社会への理解を促すこと、障がいを持った人たちも一人の人間として、笑顔で暮らしていけるような環境を作っていけたらと思います。

医療依存度の高い重症児にとって、安心して地域で暮らしていくには、充分かつ肌理こまやかな医療提供も大切な要素です。今回4月に開院される「磐田在宅医療クリニック」の福本先生においでいただいたことは、今後の重症児の医療に、新しい可能性を感じさせてくれました。更に地域の総合病院、地域のかかりつけ医と良い仲間づくりをしていきたいと思います。

また特別講演の松澤先生のお話しには、熱意と暖かさを感じ、『人は、人の中で、人に認められて、人として輝きを増していく。』の言葉には共感するもの大でした。

「近くに仲間がいる」安心感、地域で医療を受けることが当たり前になっていくこと、家族が安心して暮らせる社会、考えることはまだまだ沢山あります。障がいを持った方たちから得られる勇気や元気をエネルギーにして、次のステップにつなげていきましょう。今後のこの会の活動が次のステージへと進むために、是非またこのような機会を作っていきたいと考えています。

中東遠圏域自立支援協議会　重心部会主催

みんな集まれ！

# わくわく生活検討会

## ～私たちはこんな日々を送りたい～

日時：平成 28 年 3 月 19 日（土）　13:00 ～ 16:30
場所：ぴの ほーぷ

ようこそ「わくわく生活検討会」へ！本日は、140 名を超える大変多くの方が参加してくださいました。思う存分、みんなで話し合い、実りの多い会にしましょう !!

## ～日程～

12:00　受付
13:00　開会
13:10　グループセッション
14:30　総評
15:15　講演：「重い障がいのある方の自分らしい暮らし」
講師：愛光園　管理者　松澤　賢治様
16:30　閉会

## ～お願い～

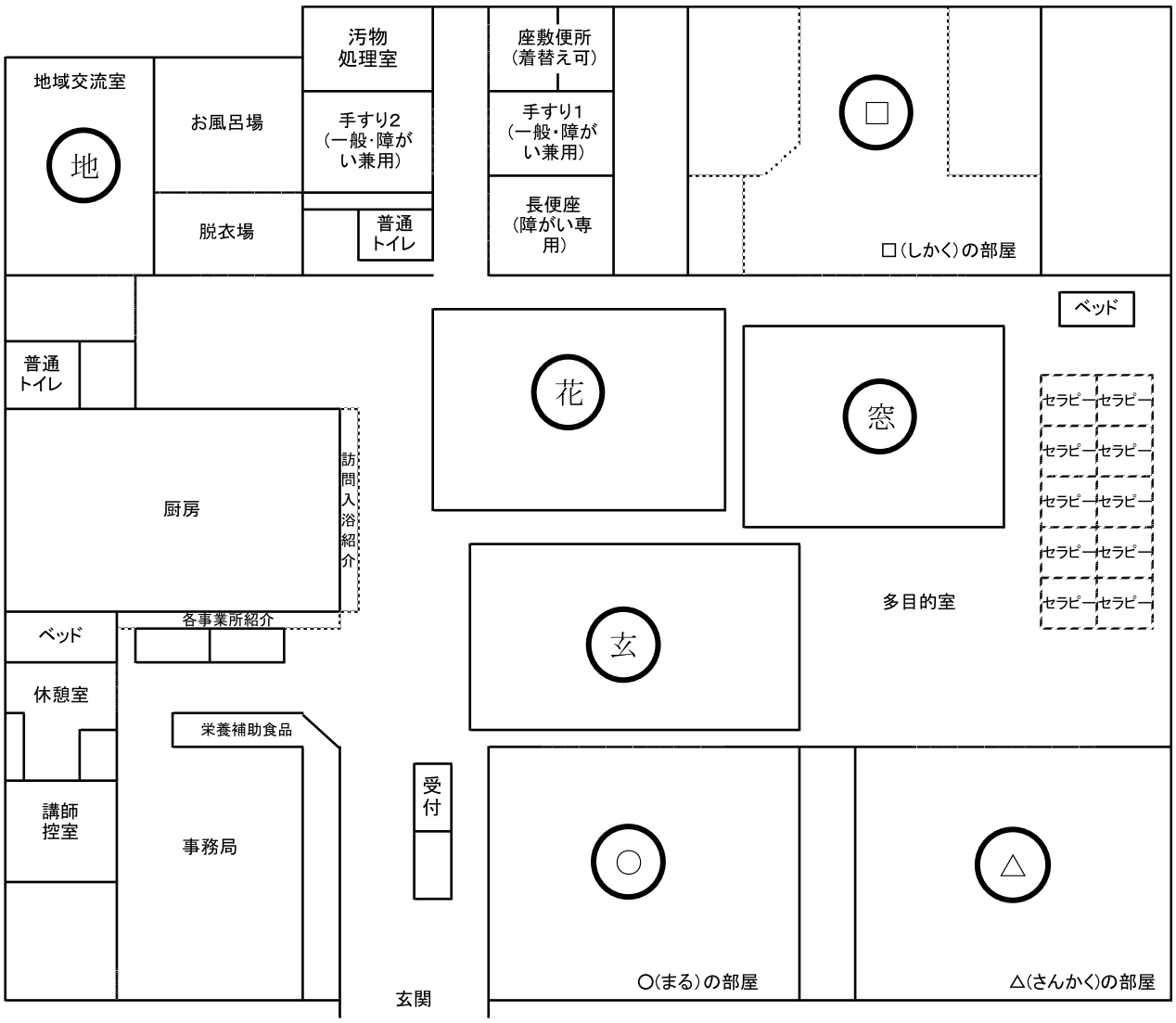
・会場は大変混雑しています。移動等の際、ご協力をお願いします。

・休憩時間が大変短くなっています。おトイレ等、休憩時間以外も活用して柔軟に行ってくださるようお願いします。

・報道機関の取材があるかもしれません。又、記録の為写真を撮らせていただきます。どうしても撮影を遠慮したい方は、黄色いテープを付けた職員までお申し出ください。

・これからの中東遠圏域をよりよくする為にも、アンケートの記入にご協力をお願いします。受付に箱がありますのでそこにお入れください。

わくわく生活検討会　グループセッション平面図




・開会の際、地・□でグループセッションを行う方は、多目的室でお待ち下さい。

・トイレは男女兼用です。手すり１・２は車椅子の方も使われます。施錠できます

( 少し手前に押しながら施錠します ) 使用後は扉は開け て下さい。

・セラピーはご自由にお使いください。休憩室を使われる方は黄色いテープを

着けた職員までお申し出ください。

・人数も多い為、所持品の紛失等ご注意下さい。

・講演は多目的室で行います。席は自由になります。

# 僕たち、私たちは…こんな日々を送りたい !!

## ＜家族・仲間＞

兄の行事にできるだけ参加したい、土日の大会・定期演奏に一緒に行きたい。
子供が学校・施設 ( サービス ) で日中過ごし、親は働きたい
( ケア児の親は働くことが難しい )。
親がいなくなった時の支援。
医療的ケアがありますが、親に何か起きたとしても困る事なく安心して生活を過ごしたい。

## ＜旅行･外出 ＞

旅行、飛行機に乗ってみたい ( 発作があるけど…)
社協のバス（あいりん号 ) を借りて、同じ訪問の友達家族 ( 呼吸器を装着している子 )
と近場でよいので日帰りバス旅行を実現させたい。
飛行機に乗って旅行 ( 家族で ) がしたい。
サッカーや買い物も、家族がいけない時でも他の人と一緒に行けたらいいな。

## ＜友達作り・関係作り ＞

お友達と一緒に遊びたい、楽しい事をしたい。
友達。わかりあえる人を作る。
家族とともに、地域の人や沢山の人と関わりあって暮らしたい ( 医療的ケアの条件有 )
友達や支援員さんと旅行に行ってみたい ( お泊りしたい )

## ＜安心した日々･楽しい日々 ( 子どもも家族も )＞

現状維持の生活がしたい ( 生活面・身体面でも )
子供が自分で楽しめるものを増やしたい
卒業後も安心して生活できる場が欲しい
出来る限り身の回りのことを自分で行い、
買い物等一人でいけるようになりたい ( 自立した生活 )
楽しみを見つけ、ストレス発散
自分の思い通りに動ける身体と体力
笑える日々 ( 落ち込んでも次の日 )
安心して楽しい日々を送りたいです。
地元で家族や仲間と安心して生活を送りたい
( 医療リハビリ等も地元で対応してもらえたら嬉しい。ずっと )
自分の意思が周りにちゃんと伝わってほしい。
命が終わるその日まで笑って過ごして欲しいです。
卒業しても同級生とずっと一緒に生活できたらいいな。
施設が充実してくれるといいな。
リハビリを受けたいです。
楽しく過ごしたい。出来る事ならすきな事だけをしていたい…かな？

## ＜働く場所、居場所作り ( 就労、福祉的就労…色んな可能性 )＞

働く場所、移動手段
息子が「働く」事を理解し頑張りたいと思える場所があるといいなぁ、と。
親の思いに近い気持ちの中で…

# グループセッション報告

## 1. 花グループ

・リハビリについて。専門的に受けたくても、静岡や浜松という都市部まで行かないといけない。
・掛川東病院でリハビリの受入を行っている。掛川特支やぴの ほーぷに定期的に関わってくれている。菊川病院のリハは高齢者や怪我の人と一緒に行うので、専門的な事は相談しにくい。
・近場に医療・歯科・リハ等受けられるところがあると良い。
・親が頑張っているから今通う所があるが、頑張れなくなったらどうなるか不安。
・地域で一人でもその子の事が分かってくれて、見てくれる人がいれば安心できる。
・施設が合わないと思った時、違う施設を選ぶのにどうしたらよいか。学校に行っている人は実習があるが、成人から探すと分からない。
・この地域に風の森みたいな肢体･知的両方見てくれる施設が必要。半面、現実は大変。
・学校みたいな生活介護の施設が欲しい。
・声を上げたくても、声が少ない ( あげづらい )。
・当事者の方が声を上げてくれないと行政は動かない。
・50･60 代の人が作業所に行きたいという相談があるが、施設がない。
・全てが居住地になってしまう。国からお金をもらっているのだから、どの地域の人も見てほしい。
・子供が大きくなるにつれて本当は喜びたいのだが、不安しかない。

## 2. 窓グループ

・子どもの将来と共に、親のことも考えていかないといけない。親に何かあった時誰が見てくれるのか。
・医療的ケアの必要な人が増えてきているが、看護師がいないと見てもらえない。ショートの受け入れ先もない。どんな障害を持っていてもサービスが使えるようになるとよい。
・いろんな人の力が必要…そこで､｢お父さん改造計画｣! お母さんがいない時にもできるようにわかりやすく提示をし、お父さんが経験を積み、自信を持ってもらう｡｢ありがとう｣｢頼りにしているよ｣という感謝の気持ちを忘れずに。
・お父さんに限らず事業所にも言える。何回も足を運んでいって、事業所と信頼関係を持っていく中で、今まで駄目と言われていたところでも受け入れられるようになっていったりするのでは。
・お母さんの運動があって事業所が出来る中で、児童発達や放課後等デイとか、重心の人を受け入れるところが増えているのでは。
・知的障害の方中心の施設でも少しずつ入浴等の受け入れが出来るよう努力している。
・学校→通所→その先はどうなるのか？
･朝や帰宅後の世話をヘルパーに依頼。助かっている。家族とヘルパーをなかなかつなげられない。利用先 (学校や通所 ) から拡げていけると良い。
・積極的にヘルパーを使い、ヘルパーを育て信頼関係を作っていくことが大切。
・同性介護が望ましい。
・市にサービスがない。医療的ケアが大変な時、病院しか外出先がなかった。磐田に子どもを受け入れてくれるところが欲しい→事業所に出掛け、子どもを見れる人を増やしていくことが大切。あきらめないで続ければ、助けてくれる人の輪が必ず広がっていく。色々な人とつながっていくことが大切。
・震災の際にも対応できるように、木のスプーンを使って何でも口に運ぶ体験をしている所もある。

## 3. 玄グループ

＜学童について＞

・掛川市民だが、旧大須賀町は袋井特支に行かないといけない。少人数だから意見が言いにくい。迎えに来てほしい。
・放課後等デイサービスが増えているが、卒業後の進路と勘違いする人もいる。
・重心児が通える学童は少ない。
・家まで送迎してくれるのは嬉しい→範囲が限定されている面がある。

＜介助について＞

・成長して身体が大きくなると、介助に時間がかかる。
・入浴に関しては、協力してくれる人がいない時には身体を拭くだけになってしまう。
・週 1 回ヘルパーを利用して入浴している。体への負担が減っている。父がヘルパーに抵抗があったが、母が緊急入院した際に利用し、信頼を得ることが出来た。

＜緊急時について＞

・避難所に必ず特支の先生がいてほしい。
・医療のように、土日の対応に関して施設を当番制にして回せないか。
・家族が急病になると、家族だけでの対応は困難になる。

＜旅行について＞

・石垣島に飛行機で行った。あらかじめ緊急時の対応を旅行会社と打ち合わせ、レンタカーを乗り捨てにしたりドア to ドアの移動にする等していった。
・修学旅行をすることで自信がつく。保護者の思い切りも必要。
・Dr. がいれば行ける場所が増える。

＜サービス全般について＞

・ライフサポートのように、この市では出来るがあの市ではできない、という事も有る。市を越えてサービスがつながってほしい。
・めばえに看護師配置を行っている等、ソフト面の変化はある。当事者から声を出していく事によって改善されていく。
・福祉サービス、特に障害のサービスは複雑で分かりにくい。
・例えばコンビニに出かけ、車内に一人で待たせることが出来ない…その少しの瞬間を補えるサービスがあれば。
・障害者用駐車場に停車してしまう健常者の人がいて困る。又、同じ立場であっても理解してもらえない事も有る。
・通所で入浴があると保護者の負担が減る。
・施設を作る時には、保護者 ( 先輩利用者 ) の方の意見を聞き入れて欲しい。
あきらめかけた夢をかなえる手段はいくらでもある！

## 4. □グループ

＜気切・呼吸器を使用した生活について＞

・学校での医療的ケアはモデル事業として当初スタートした。ほぼ保護者が待機していたが、少しずつ充実し、待機も無くなった。

・理解が少ない中で、どう医療的ケアをすすめて行ったか？→Dr. のすすめや、子どもの様子による。地域によっても考え方に違いがある。
・親の思いと子どもの生命・生活。どちらを優先するか？生活全般でどちらにメリットがあるか、ではないか。
・摂食をしていくか、胃ろうにしていくか。経鼻での飲み込みは違和感がある。摂食外来や Dr. の指示をもらいながら考えていく。
・気切の対応について、学校でできることが増えてきている。呼吸器の子は磐田の幼稚園にはいけない。浜松 (おおぞら ) では受けてもらえる。
・吸引・経管・導尿まで良くても呼吸器は駄目等、各校によって違いがある。
・小学校は呼吸器の子は訪問教育になってしまう。生活水準が低下する。
・こうした声をニーズとして県に届けたい。
・学校での実績が社会を動かす。
・難病リフレッシュ事業で学校の看護師が出来ないケアを訪看の看護師が行える。袋井・掛川特支は未実施。義務教育のみ。
・ショート先がない。医療的ケアのある人はおおぞらかつばさに行く事になる。3 ヶ月前から予約が必要で、緊急時のみしか受けてもらえなかったり、キャンセル待ちが多数ある等してしまう。
・ 1 床でも総合病院にあると助かるが、病院の中でナースが生活を支えるノウハウがあるか？現状では親が付き添ってやらなくてはならないのでは？

## 5. △グループ

＜外出について＞

・サービスの使い勝手が悪いと家族対応になる。体が大きくなるし、一人で連れて行くのは大変。
・思い切って出掛けてみる。子どもも慣れて来る。
・出掛けてみると、姉の友人に分かってもらったり…出掛けていくと知ってもらえる。挨拶をしたり、階段で助けてくれたり…。
・年の離れた兄がいるが、余り連れて行きたくない。特に近場はハードルが高い。本当は連れて行かなきゃ、と思う。
・車椅子も乗れる社協のバスを使い、バス旅行に行きたい。ヘルプの手があってリーズナブル。疲れるけど、日帰りでもみんなで楽しく過ごせたらな。
・初めてサービスに入る人にトイレ介助は無理！
・男の子だったら、お父さんを巻き込もう。

＜サービスについて＞

・静岡の中央特支や富士では、県の難病リフレッシュ事業を使い、学校に訪看が入って付き添うことが出来る。1 時間 520 円。家族の負担軽減になるが、市町で条件が異なったりする。
・医療的ケアの受け入れの間口は少ない。行動援護も事業所が少ない。
・重度訪問介護は事業所が少なく、単価も安い。

## 6. ○グループ

・情報が流れてこない、分からないことへの不安がある。今のこと、将来のこと…。「それって何？」っていまさら聞きにくい。
・放デイを増やしたいが、重心児に合う所がない。知的の子と一緒になってしまう。
・土日にもう少し利用をしたいが…

・体温調節をどうするのか。ペースト食の対応が出来るのか、福祉雛所まで遠い等、災害時の不安が大きい。
・介護者の体力がいつまで持つのか。重心でいけるところはおおぞらのみ…「普通の生活がしたい」！

＜情報について＞

・磐田に放課後等デイ「まんまる」がある。
・菊川市では自立支援協議会の中で冊子を作成、各市町の HP に載せていく。
・特養で「ふじのくに型」サービスを提供している所もある。福祉課や放課後等デイの相談員に相談してみては。
・直接利用している先輩保護者や仲間に聞くと、常に情報が更新されている。
・施設だけでなく、介助の仕方 ( 入浴等 ) も参考になる。
・施設によってカラーが違う。
・「さいとうさんち」は高齢者の方と一緒のサロン。建物の関係で重心のみを受けている。２年間で 60 名の面接があった。ラジオやテレビで情報を発信している。現状を知ってほしい。
・はまぼうさんの放課後等デイの利用が多い。保護者の口コミで広がった。土日、どうしても…と言うニーズを受け入れている。
・はまぼうさんで重心に特化した事業を計画している。思いやニーズがあれば施設側は考えていく。施設と保護者が一致することが大きな力になる。

＜防災について＞

・各市町に防災計画がある。福祉課にあるはず。
・地域 ( 民生委員・自治会 ) に聞いてみる。又、各家庭でも準備が必要。肢体の子のことを伝える必要がある ( オムツを替える場所がいる等 )。

## 7. 地グループ

・働くのはどんなところが良いか。就労 A？就労 B？特例子会社？生活介護？…最低賃金が保証されたり、楽しく、頼れるところが良い。
・本人が安心して笑顔で過ごせる場所が欲しい。
・本人を理解して、楽しく過ごせるところが欲しい。
・親は何が出来るのか？
・何とか入れたい、という思いで無理をするとサービスの低下につながる。
・それぞれの個人について、色んな所で話し合いをして、進路先とか相談できると。
・学童は充実してきたが、事業所 ( 就労 A 型 ) はすぐに出来るのか？
・重心部会だけでなく、進路部会等でも保護者の意見が入っていくとよい。
・卒業してからの生活の領域で、潤いが欲しい。合コンとか、出会いの場も欲しい。

# 重い障がいのある方の自分らしい暮らし

社会福祉法人　愛光園
障がい者活動センター　愛光園
松澤　賢治
2016. 3. 19



## 障がい者活動センター　愛光園　外観
## (平成20年　5月　東浦町移転)

## ■愛光園の概況

- 事業所種別(平成18年10月1日指定)
  障がい福祉サービス　生活介護事業
  定員　36名　　現員　42名
  平均年齢　　36. 1歳

- 通所エリヤ　　9市4町
  大府市、東浦町、知多市、東海市、刈谷市
  岡崎市、安城市、武豊町、美浜町　等



## ・利用者状況　（男性　25名　女性　18名）

| 療育手帳 | | | | 合計 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 身障手帳 | A | B | C | | |
| 1　　級 | 23 | 1 | 3 | 27 | |
| 2　　級 | 7 | | | 7 | |
| 3　　級 | 1 | | | 1 | |
| 5　　級 | 2 | | | 2 | |
| 8 | 2 | | | 2 | |
| 身障手帳のみ | | | 3 | 3(1級) | |
| 合　　計 | 35 | 1 | 6 | 42 | |



○医療的ケアの状況
　気管切開　4名、鼻腔栄養　2名、
　胃瘻　7名、腸瘻　1名、導尿(留置)　1名
　吸引　14名、吸入　8名

○食事形態の状況
　普通食　19名　　刻み(つぶし)食　7名
　ミキサー食　6名　　鼻腔、胃瘻腸瘻栄養　10名



○障害支援区分

| 区分 | 男性 | 女性 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 4 | 1 | 1 | 2 |
| 5 | 4 | 3 | 7 |
| 6 | 19 | 14 | 33 |
| 合計 | 24 | 18 | 42 |

## □愛光園の実践活動

【大きく4つの活動に分かれている】
○グループ活動(4グループ)
近い方向性を持つ利用者が集まり、柱となる活動(作業・創作・地域交流等)
○花金活動(4グループ)
人との出会い、地域交流を柱とした活動
○サークル活動
趣味や能力を生かした活動
○すこやか
個々の状況に合わせた活動(ゲーム・散歩リラクゼーション等)



## □週間プログラム

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 |
|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | **サークル活動** | | | | |
| | むじか | | | | |
| | 木工 | **グループ活動** | **グループ活動** | **グループ活動** | **花金活動** |
| | ふぃーりんぐ | | | | |
| | **すこやか** | | | | |
| | クッキー作り | | | | |
| 午後 | **サークル活動** | | **サークル活動** | **サークル活動** | |
| | 文化 | | 絵画 | 体感 | |
| | SPC | **グループ活動** | プール | フラワーメッセージ | **花金活動** |
| | クリーン | | モスるっ | うんどう | |
| | ドラムサークル | 入浴 | 入浴 | 入浴 | |
| | 入浴 | | **すこやか** | **すこやか** | |
| | **すこやか** | | | | |



## □グループ活動

○もりもりグループ
アルミ缶回収・ベルマーク回収・エコキャップ回収
缶つぶし・牛乳パックを利用しての紙づくり
ボランティアセンターでの活動

○やってミントグループ
・陶芸を中心とした活動
作陶・近隣の店での展示販売
・常滑焼まつりに出店



○いちご
・地域で食を通したイベントを企画していく
市民活動センターでの1Dayシェフ
・愛光園グッズの企画・デザイン・販売

○さんさん
・パン作りと定期販売
売上を東日本大震災の義援金として出す
・ご高齢の方との交流会
・特別支援学校の生徒さんとの交流会
・青空喫茶カフェ・ド・シホ



## □花金活動

○たららん白書
・楽団関係のボランティアさんとの音楽コンサート
2回/年
・地域に向けての演劇活動　保育園での公演
1回/年

○よくばりグループほどほど
・新聞づくり(地域の店に取材) 年2回発行
・学生のボランティアサークルと交流会だけでなく、活動を仲間と共に活動を展開していく。
新聞の取材や記事づくりを一緒に行う。



○八宝亭はちくん
・よさこいのグループの方と協力して、イベントに参加する。
愛光園夏祭りでよさこいを踊る
・仲間一人ひとりのニーズに合わせて、外出等のイベントの企画・実行をする

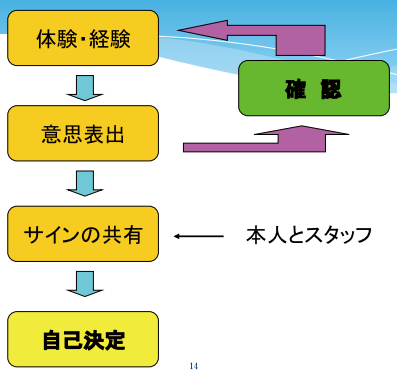
○らべんだー
・野菜作り　収穫した野菜で収穫祭を行う。
・収穫した野菜を通して地域の店と繋がりを創る。

## □サークル活動

○音楽関係(むじか・リンダリンダ・ドラムサークル)
○絵画(カラーフレンド)
○園芸(フラワーメッセージ)
○スペシャルキャンディーズ(SPC)
○モスるっ！
○木工
○文化
○プール　　等など



## □意思決定支援が大切






## □関係性の拡がりを創る活動の意味

・重症心身障害者の方の笑顔やしぐさの一つ一つが、周りの人達の心を揺さぶる大きな存在であるということ。
・その存在や働きの大きさを知った一人の人として、自分の中だけにしまっておいてはいけないということ。

→ 人は、人の中で、人に認められて、人として輝きを増していく。

→ 愛光園の人　から　愛光園の○○さん
●●グループの○○さん　そして　○○さん



## □重い障がいのある方たちの日中活動

①様々な経験・体験をしていくものである。
②本人さんらしく輝ける取り組みである。
③生活の豊かさを追求していくものである。

## □重い障がいのある方の日中活動場所

①一人ひとりの生活の核となる場所。
②一人ひとりが、本人さんらしい自己実現をしていく場所。
③一人ひとりが、主体者である場所。



## □平成28年度活動プログラムに向けての取り組み

○プロジェクトチームの立ち上げ　平成27年度4月より
○プロジェクト会議の開催　　1回/月
○会議内容
・仲間たちの様子の振り返り
・課題の洗い出しと方向性の検討
・次年度の活動プログラムのイメージづくり
・体験活動の方法の検討と実施
・仲間一人ひとりの思いの聴き取りの方法の検討と実施
・聴き取った思いから活動プログラム(案)の作成



### ○平成26年度までの活動プログラムに対する課題

・各活動の内容が固定化され、それを長い間続けてきた。
・仲間たちも長い間同じような活動を行ってきた。
・その同じような活動内容の中での工夫に留まっていた。
・色々な事の経験・体験する機会が少なくなってきた。
・仲間たちの力の深まり、拡がりを作り上げていくことが難しい状況・環境になってしまった。
・スタッフの仲間に対する捉え方が固定化されてきている。

### ○平成28年度活動プログラムのコンセプト

・仲間たちの新たな力の発見
・仲間たちの新たなコミュニケーション力の発見

→ **エンパワーメントを昂めていく**

## ○そのためには

→様々な体験・経験できる機会を増やしていく。

→主体的な取り組み

・どんなことが好きなんだろうか
・どんなことがやりたいんだろうか
・どんなことができるんだろうか
・どんな動きができるんだろうか

○そのためには、創造・想像・工夫・コーディネイトが必要

→主体的な表現・動きの発見・新たな力の発見

・どんなことをした時に
・どんなことを話した時に
・どんな雰囲気の時に

○そのためには、その一瞬を逃さない感覚・観察・洞察が必要

→主体的な表現・動きに感動・共感・共有



## 仲間の思いから
## 平成28年度の活動プログラム(案)を作成したところ

活動プログラム(案)に劇的に大きな変化はないが、
スタッフの意識が少しずつ変わってきた。
どうしていったらいいのだろう？
どうなっていくのだろう？
とスタッフは不安に思っているが、
良い方向に向いていくのでは。
そのためには、

・仲間たちとしっかり向き合い、思いを聴きとっていく。
・一瞬、一瞬の仲間たちの小さな変化を見逃さない。
・そこから見えてくる可能性の探究・追求



## ■グループホームでの暮らし

○グループホーム定住者
18名　（男性　13名　女性　5名）
○体験宿泊利用者
1名　（男性　1名）

○法人関係ホーム　5軒
わいわいハウス・おあしす・仲間の家・くらら
おれんち
○他法人関係ホーム　1軒



## グループホーム紹介

追分方面

わいわいハウス（H9年開所）

おあしす（H13年開所）

仲間の家（H20年開所）

共和方面

くらら（H23年開所）

おれんち（H24年開所）



## □現在に至るまでの経緯①

①平成元年・・・宿泊トレーニング　ナイトケア開始

②平成4年・・・宿泊の家「わいわいハウス」確保
（公的補助なし　運営費はご家族負担）

③平成7年・・・生活ホーム「仲間の家」開所
（県の地域生活援助事業）

④平成9年・・・生活ホーム「仲間の家」新築

⑤平成13年・・・グループホーム「おあしす」スタート
（知的障害者地域生活援助事業）国制度

⑥平成15年・・・生活ホーム「仲間の家」がグループホームとなる

⑦平成16年・・・ヘルパーステーションりんく立ち上げ



## □現在に至るまでの経緯②

⑧平成18年10月・・・「経過的居宅介護型共同生活介護事業」に移行する

⑨平成20年・・・NEW「仲間の家」完成。

⑩平成21年7月・・・「ケアホーム」に変更。個人単位で居宅介護利用

⑪平成22年・・・「わいわいハウス」を体験利用として活用。

⑫平成23年4月・・・「くらら」新築スタート。**のぞみの家**から**3名**移行。
「わいわいハウス」スタート。**まどか2名　戸田ホーム1名**から移行。

⑬平成23年5月・・・「くらら」**仲間の家**から**1名**移行。

⑭平成23年6月・・・「くらら」**まどか**から**1名**移行。

⑮平成24年4月・・・「おれんち」新築スタート。**のぞみの家**から**3名**移行。

⑯平成24年5月・・・「おれんち」**わいわい**から**2名**、**ぴわの木**から**1名**移行。

## □医療的ケアの実施状況

・胃ろう及び腸ろう⇒4名
・吸引(鼻腔及び口腔)⇒4名
・排便コントロール(座薬・浣腸)⇒6名
・発作時(座薬)⇒2名
・尿道カテーテル留意⇒1名
・じょくそう対応⇒1名
・吸入(喘息時)⇒2名



## □重症心身障がい者の方がホームで暮らすには

○多くの支援者が必要
　世話人・支援員・ヘルパー・専門職・ドクター
○様々な事業所との連携が必要
　居宅介護事業所・訪問看護・訪問リハ等
○医療機関との連携が必要
　開業医(かかりつけ医)・総合病院
○環境の整備
　バリアフリー・リフト・トイレや浴室のスペース



## □重症心身障がい者の方が地域で暮らすには②

【地域で支える仕組み作り】
○教育・福祉・医療の連携

○個別支援会議・ケア会議の開催と継続

○自立支援協議会の働き(役割)の強化



## 医療機関(訪問看護・訪問リハ)及びNPO法人やボランティアなどの人垣の拡がりと連携強化支援体制

| ホーム名 | おあしす | 仲間の家 | わいわい | くらら　おれんち |
|---|---|---|---|---|
| ハウスキーパー（9:30~16:00） | AM3名　PM2名 | | | 常時1名<br>ライム(業務委託)　1/週 |
| 夕食作り（14:30~16:00） | 月・火・木・金　2名体制 | | | 月～日　1名体制 |
| 他事業所 | ・れんげ草（夜支援）3/週 | ソレイユ（訪問看護）2/週 | ・さわやか愛知（外出支援）1~2 / 月 | ・さわやか愛知　※毎日（朝・夜支援・外出支援・通院）<br>・絆　4/週（朝・夜支援・外出支援・通院）<br>・ネットワーク大府　2/週（朝支援）<br>・マークル（朝・夜支援）　3/週<br>・訪問マッサージ　2/週×2人 |
| 同法人内事業所 | ・らいふ（夜支援）1/週 | | | ・相生ヘルパーステーション（朝・夜支援・外出支援）　4/週 |



## □重症心身障がい者の方が地域で暮らすには①

○主たる介護者の負担軽減
　・ヘルパー、訪問看護の利用
　・ショートステイの利用
○健康面における安心感
　・かかりつけ医(すぐに相談できるドクター)
　・地域の中核病院
○生活面における安心感
　・相談支援センター(相談員)



## □今後の課題

○将来への生活
　グループホームを考える会を立ち上げて取り組んでいるが、建設の目途が立たない。
　理由は、人財が集まらない。とても厳しい状況です。
○在宅生活の継続
・高齢になってきた親御さんが多くなってきた。
　ヘルパーの人財不足
・短期入所先が少ない。
　法人内事業所の短期入所を利用している方もみえるが充分ではない。



御清聴ありがとうございました

# 講演：重い障がいのある方の自分らしい暮らし

## 障がい者活動センター愛光園　事業所長　松澤　賢治様

こんにちは。私は愛知県知多郡東浦町という、名古屋市の南、知多半島の根元ぐらいにあります、社会福祉法人 愛光園の通所施設、生活介護を行っている障害活動センター愛光園というところに勤めております。先ほど紹介していただきましたけれども、平成元年から丸27年、ずっと愛光園にいて、重心の方に携わってきました。

今日は、先ほどグループセッションから拝見させていただいて、お母さん方の声を聴き、いろいろなニーズが潜在しているなと思いました。お話を聞いて、それだけでもお腹いっぱいになってしまいました。生活介護は、特別支援学校を卒業された後に通う場所ですが、そこで、どのようなことをしているのかというお話をしていきたいと思います。

レジュメには、ほとんど写真は入っていません。写真をいっぱい撮ってきましたのでお話するよりも、写真を見ていただいた方が良いのかなと思います。

最初30分ぐらいは愛光園の実践活動を説明させていただいて、後半の30分ぐらい、グループホームの立ち上げまでの経緯をお話させていただきたいと思います。

重い障害のある方の自分らしい暮らしができたらという視点で、実践活動の中で、今まで当事者の方と一緒に行ってきたこと、これからやりたいことをまずお話をしていきたいと思います。

社会福祉法人愛光園は、昭和40年の無認可の肢体不自由児の通所先からスタートしました。47年に認可を受けて、48年に法人化になります。平成元年までは肢体不自由児の通園施設で行ってきましたが、平成元年から今の施設に切り替わって、現在を迎えております。子どもたちが通える場所が近隣にあり、また障害の多い方たちが学校を卒業された後に通える場所があまりなかったということで、対象を大人に切り替え、平成元年からスタートしました。

施設は最初、大府にありました。法人自体のスタートが大府市だったのですが、建物の老朽化や、活断層があることもあって20年に東浦町に移転しました。ここは周りに同じ法人の身体障害者の療護施設、知的障害者の入所施設、老人保健施設がありました。本当は大府市におきたかったのですが、難しく、引っ越して7年になります。

愛光園の概況ですが、定員は36名です。今契約されている方が42名で、平均年齢は36.1歳です。平成元年からのスタートなので、27年目です。通所エリアはスタートしたときが大府市でしたが、やはり近隣で行くところがないということもあり、９市４町から通っていました。大府市東浦町、岡崎、知多半島の下の美浜町から高速に乗って40分くらいかけて来ている方もみえます。半田のほうに行くと、通える場所が少しずつ出てきていたりして、だいたい知多半島の根元の方たちの通所先になっております。名古屋市の北にあります日進市からもみえます。

利用者の状況としては、１級、２級のＡ判定、愛知県ではＡ，Ｂ，Ｃですけれど、42名中30名の方が障害の重い方たちです。気管切開されている方が４名で、経鼻経管の方が２名、胃ろうの方が７名、腸ろうの方が１名で、吸引の方は常時というよりも必要になったときに痰をひくという感じですね。食事形態は、ミキサー食の方が６名です。普通食の方、大きく切ったりするという方も多いです。障害支援区分は42名中６の方が33名です。

活動は大きく４つに分かれております。グループ活動。これは作業的な内容です。それと花金活動。金曜日の活動で、グループ活動とは違った活動です。サークル活動は趣味的な活動で、すこやかはリラクゼーション的なことですね。